

チーム医療：緩和ケアチーム

—関係部署—

部 署	スタッフ名
緩和ケアチームリーダー 麻酔科	米本 紀子
肺腫瘍内科	森山 あづさ
心療内科・精神科	坂田 幹樹
がん性疼痛看護認定看護師	杉野 幸恵
緩和ケア認定看護師	樋口 紀美子
看護局	高島 麻由美 射手矢 奈津子
栄養管理科	宇野 妙子 内原 真理
薬剤科	中川 直樹 安井 結香里 若林 里絵 西村 亜希子 北庄司 敦久
リハビリテーション科	津野 光昭 藤田 将敬 黒木 真生

—概要—

2007年、厚生労働省の定める『がん対策推進基本計画』、2008年、医師に対する緩和ケアの基本的な知識等を習得するための研修会に関する健康局長通知『がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針』が発令された。それを受け当院主催の緩和ケア研修会を開始し、同時に緩和ケアチームも発足した。2012年6月、がん対策推進基本計画では、『拠点病院では、自施設のがん診療に携わる全ての医師が緩和ケア研修を修了することを目標とする。』とされた。「がん診療連携拠点病院の整備について」(2014年1月)では、がん診療連携拠点病院の指定要件として、「プログラム」に準拠した「緩和ケア研修会」を定期的実施することが明示されており、緩和ケアはすべての医療従事者に求められる基本的知識とされた。2016年12月には、がん対策基本法が改正され、緩和ケアとは「がんその他の特定の疾患に罹患した者に係る身体的若しくは精神的な苦痛または社会生活上の不安を緩和することによりその療養生活の質の維持向上を図ることを主たる目的とする治療、看護その他の行為をいう」と定義された。更に、「がん患者の状況に応じて緩和ケアが診断の時から適切に提供されるようにすること」「医療従事者に対するがん患者の療養生活の質の維持向上に関する研修の機会を確保すること」が規定された。その他の疾患に、末期心不全患者に対する緩和ケアが追加されている。

緩和ケアチームでは、麻酔科・ペインクリニック専門医米本医師が痛みを主とする身体的苦痛、肺腫瘍内科・がん

薬物療法専門医の森山医師が化学療法に伴う症状への対処、精神科・心療内科・精神腫瘍医の坂田医師が不安、うつ、せん妄など精神心理的苦痛を主に担当する。がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師の杉野・樋口看護師は、外来診療においてがんと診断された時点から緩和ケアを開始し、入院・外来と切れ目のない緩和ケアを提供できるよう各病棟と連携を図っている。薬剤師は常に緩和ケアで使用する薬物療法をチェックし、最適な薬物療法を勧める。栄養士は、摂食困難な患者への栄養指導や、摂食を改善する目的の特別なメニューを提供する。リハビリテーションは患者に動ける自信を取り戻させ、日常生活へ戻るのに重要な役割を果たしている。また終末期も身体を動かすことにより患者のリラクゼーションを得ることができ、緩和ケアにおいてリハビリテーションは重要な役割であると認識する。

このように多職種のスタッフで週1回カンファレンスを行い、協力して、院内の緩和ケア推進に努めている。

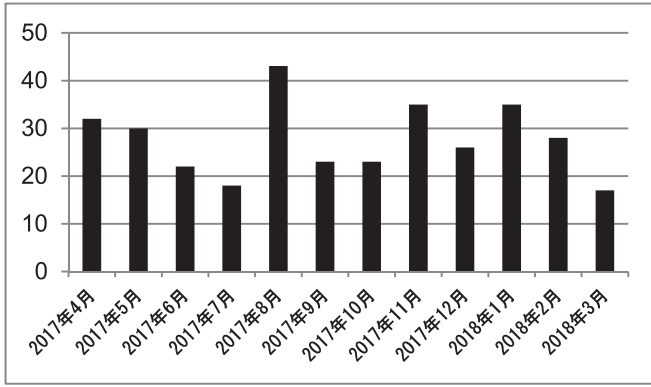
各病棟スタッフとも連携して水曜日午後15時に回診し、全身状態を評価し、疼痛をはじめとした身体症状のマネジメントや精神面でのサポートおよびケアについて提案している。終末期の鎮静に関して相談を受けることもある。

2018年1月から緩和ケア外来を開設し(月曜日午後Cブロック)、森山医師が担当している。また、がん看護外来を、がん性疼痛看護認定看護師・杉野が担当している。

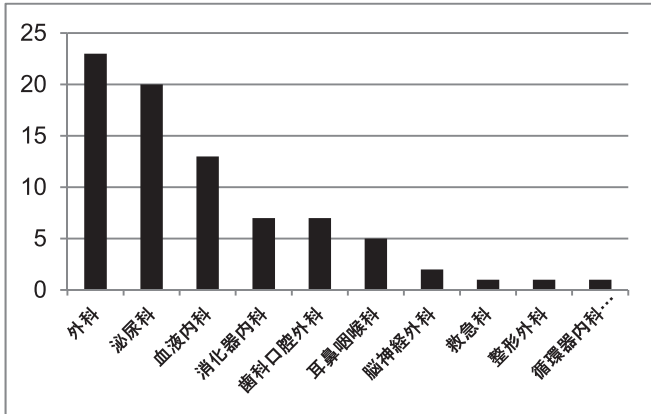
大阪府がん診療拠点病院として、年1回、厚生労働省の定める指針に基づき、緩和ケア研修会を開催している。2017年度研修会は院内外より多職種30名が参加し、2日間の日程で行っている。

—実績—

- ・院内緩和ケアチーム回診 2回/週
- ・2017年5月27-28日 第9回りんくう緩和ケア研修会
企画責任者:りんくう総合医療センター
血液内科 福島健太郎



2017年度 月別緩和ケアチーム回診回数



2017年度 診療科別依頼件数

【緩和ケアチーム紹介・回診風景】



—今年度の成果と反省点—

院内緩和ケアチーム回診で、がん患者や末期心不全患者の苦痛に介入をおこなった。また、研修会や、回診後の主治医、病棟看護師との会話を通じて院内の緩和ケアの向上を目指した。

2008年から10年目の現院内において、各抗がん治療主科が積極的に緩和ケアを提供していると実感している。現在の当院で起こる問題点は、緩和ケア研修会では研修していない困難な点に集約してきており、チームも日々研鑽が必要であると感じる。

—来年度への抱負—

診療科にかかわらず、がん治療における苦痛やつらさを緩和できるよう、きめ細かく、かつ柔軟に対応できるよう努力していきたいと考えている。また、がん診療拠点病院・急性期病院として地域連携をすすめ、地域の各方面とも関係を構築していきたい。